

(様式第3号)

平成19年度調査研究中間報告書

調査研究課題	薬剤耐性 HIV の発生動向把握のための検査方法・調査体制確立に関する研究 - 首都圏近県地域における薬剤耐性変異株の発生動向 -
計画期間	平成16年度～18年度 3年間
調査研究計画	エイズウイルス感染症の標準的な治療法として多剤併用療法が定着し、病状の進行を遅らせることが出来るようになった。しかし、変異株の出現が治療を進めていくうえで深刻な問題となってきた。関東甲信地域は、わが国におけるエイズウイルス1型(以下、HIV という)の主要な感染地域であるため、薬剤耐性 HIV 調査体制を確立することは、今後のエイズ対策を進めていくうえで大変重要である。また、B型肝炎ウイルス(HBV)感染症に用いられる抗ウイルス薬は HIV 感染症の治療にも使用され、HIV 感染症の治療に大きな影響を及ぼすことがあるため、HBV の重複感染の状況についても併せて調査する。
進捗状況	<ol style="list-style-type: none">1 茨城県、栃木県、宇都宮市、山梨県及び長野県にわたる薬剤耐性 HIV の調査体制を構築した。2 5 県市の地方衛生研究所と茨城県内のエイズ拠点病院の1つから得られた2003年から2006年までの未治療検体37例について、薬剤耐性 HIV の検出を試みるとともに、遺伝子型を調べた。3 HIV 陽性血清27検体について HBs 抗原検査を行い、陽性例については遺伝子型及び遺伝子亜型を調べた。
これまでの成果の概要	<ol style="list-style-type: none">1 薬剤耐性に関する変異は認められなかった。しかし、保健所における HIV 感染者等の捕捉率は低いとため、今回の調査結果からだけでは、当地域に薬剤耐性 HIV が浸淫している可能性を否定することはできないと思われる。2 M36I, H69K, I13V が高い頻度でみられたが、これらは、サブタイプ CRF01_AE に特異的な minor mutation 又は polymorphism であることが示唆された。3 HIV の遺伝子型の内訳は、CRF01_AE と B が約半数ずつであり、B 型がほとんどを占める首都圏の状況とは異なっていることがわかった。4 HIV と HBV の重複感染の頻度は 14.8% (4/27 例) であった。5 茨城県内の MSM の検体から首都圏等に限局していた HBV/Ae 型(我が国に土着していない)が検出された。このことから同じく首都圏等に限局している薬剤耐性 HIV が首都圏近県地域に拡散している可能性があると考えられた
今後の計画・課題対応方法	<ol style="list-style-type: none">1 本調査研究は、継続的なデータの積み重ねを必要とすることから、平成19年度以降についても継続して実施したい。2 HIV 感染者等の捕捉率を高めてより正確な実態を把握するため、拠点病院との連携の輪を拡げる。3 HBV 関連検査として HBs 抗原検査を行ったが、次には PCR 法を用いた感染初期例の検出も試みて重複感染の頻度をより正確に調べる予定である。